

舞台はインドの家庭の「台所」

目の前で次々と出来上がり、料理を、どうぞあたたかも召し上がり。そして一緒に聴いてください。インドに生きる女性の物語を……。深く静かな、彼女の問いかけを……。

上演 **ザ・カンパニー** (インド・チャンディーガル市) 演出 **ニーラム・マン・シン・チャンドリ** テキスト **スルジット・パーター**
 会場 **studio21** (京都造形芸術大学内) 主催 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター Kyoto Performing Arts Center TEL:075-791-9437

2002年

6月

1日

start=18:00

2日

start=15:00

3日

start=19:00

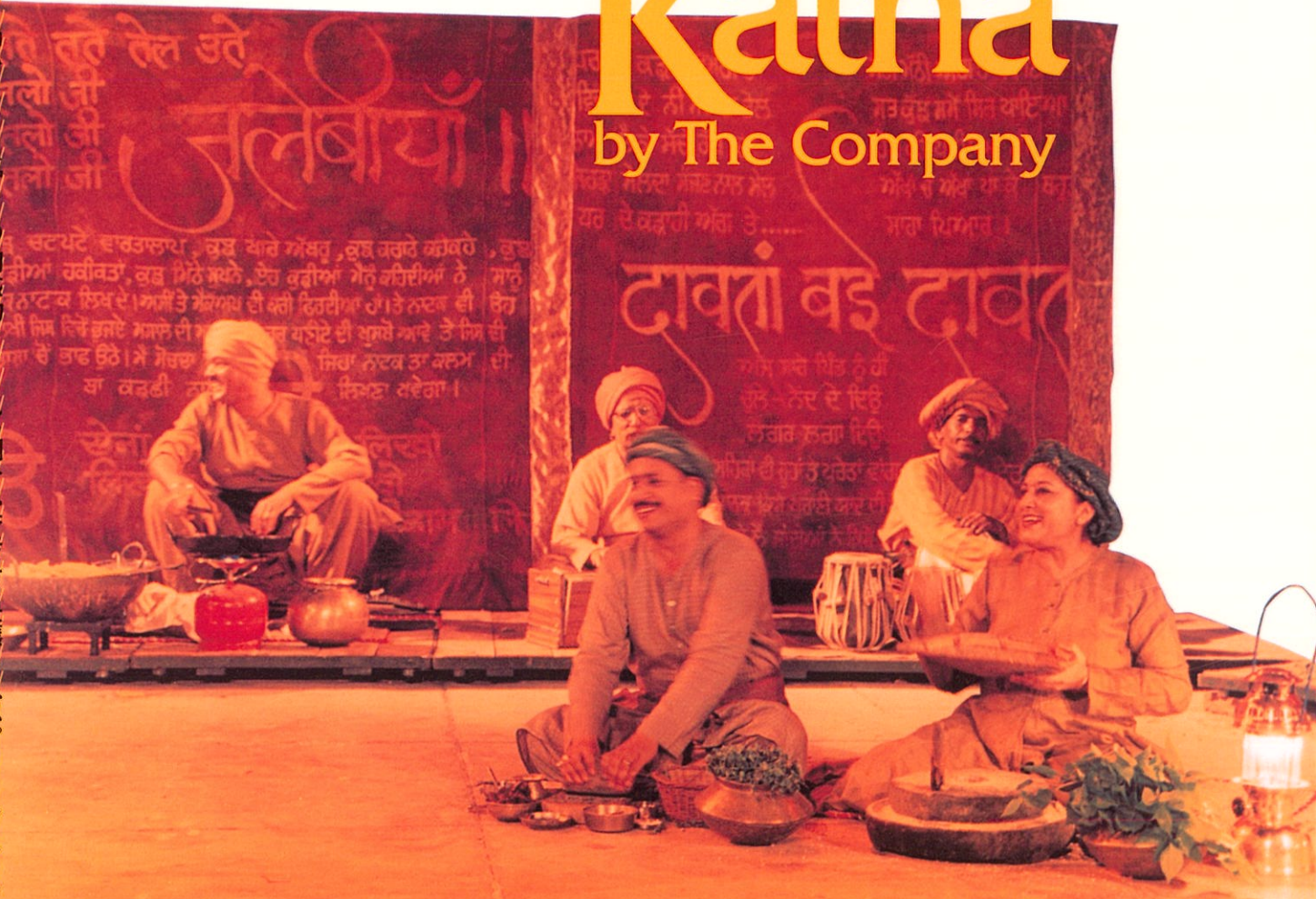


シンポジウム「近代化／女性／演劇」6月2日(日) 16:30

京都造形芸術大学・舞台芸術研究センター 上演実験VOL. 4

キッチン・カタ Kitchen Katha

by The Company



Kitchen Katha by The Company

キッチン・カタ ザ・カンパニー

料金

一般……前売3000円(当日3500円)
学生……前売2000円(当日2500円)

予約・お問合せ

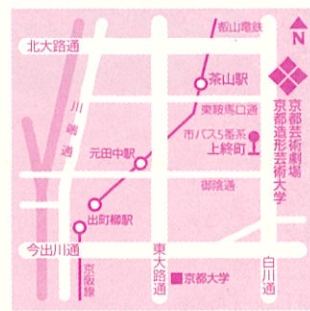
京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
Kyoto Performing Arts Center
〒606-8271
京都市左京区北白川瓜生山2-116
TEL: 075-791-9437
FAX: 075-791-9438
E-mail: info@k-pac.org
URL: k-pac.org

前売取扱

[チケットぴあ]
06-6363-9999
[Pコード]
407-953
[舞台芸術研究センター事務所]
075-791-9437

アクセス

◆JR「京都」駅/京阪「三条」駅/阪急「河原町」駅から(京都駅からは約50分)
→京都市バス5番「岩倉」行き乗車「上総町・京都造形芸術大学前」下車
◆市営地下鉄「北大路」駅から(約15分)
→京都市バス204循環に乗車「上総町・京都造形芸術大学前」下車
◆叡山電鉄「茶山」駅から→徒歩10分
*駐車場はございません。



◆演出家のことば……**ニーラム・マン・シン・チャウドゥリー**

「私の想像力は、まさに自分が家庭を持って暮らしている一人の女性であるということから、多分の養分を得ています。今の私には、突然ニューヨークに行って精神的な経験を得るなんて不可能です。むしろ同種の経験を、私は自分の日常生活そのものから得ているのだと思います。ですから『キッチン・カタ』は、何か深遠な奥義のようなものとはまったく関係がありません。そこで演劇的に構成される音は、日常的に台所で聞こえてくる普通の物音です。そうやって、私はあくまでも日常的なものや、そうしたものの持つエネルギーを、演劇的なメタファーとして用いるやり方を取っているのです」

会場

studio21
(京都造形芸術大学内)

2002年

6月

1日

土

start=18:00

2日

日

start=15:00

3日

月

start=19:00

シンポジウム「近代化/女性/演劇」6月2日(日) 16:30

演出

Neelam Man Singh Chowdhry

テキスト

Surjit Patar

上演

The Company

宣伝美術

HOLON

制作

花光潤子(魁文舎)

助成

財団法人セゾン文化財団 / 国際交流基金

後援

インド大使館

主催

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

『キッチン・カタ(物語)』は、食物と人とのライフサイクルの関係を描いた料理のロマンス。記憶、神話、感情、支配、儀礼、そして誘惑としての食物。……フティム・メンン

「キッチン・カタ」は、この作品を食物と料理に対する官能的な讃歌に仕上げた。同時に主人公を、料理を作ることのなかに含み込まれている技法や創造性を通して、台所という牢獄を超越していく存在として描き出している。……レヒュー・アーツ

「この劇にとって食べ物、登場人物の強烈な欲望と苦痛を表現する上で、欠かせない要素になっている。観客は台所としてデザインされた装置とともに、イメージと音楽が醸し出す豊かな相互作用に身を任せることができる」……ストリート・タイムス

ニーラム・マン・シン・チャウドゥリー と ザ・カンパニー

Neelam Man Singh Chowdhry and The Company

劇団「ザ・カンパニー」は、1983年演出家ニーラム・マン・シン・チャウドゥリーによって創設。パンジャブ州の伝統的な民俗芸能のグループと、都市の素人俳優との共同作業を通じて作品を立ち上げることで知られている。レパートリーにはラシーヌやガルシア・ロルカなども含まれ、西欧の古典的演目から得た着想を、地元パンジャブ州の民俗芸能の美学に基づいた様式で上演し、国内外から高い評価を受けている。ロンドン国際演劇祭(LIFT)、アヴィニオン演劇祭など海外公演も多数。昨年東京で開催された第三回アジア女性演劇会議にチャウドゥリーがパネリストとして来日、その際にビデオショーイングされた『キッチン・カタ』に多くの関心が寄せられ、来日公演が期待されていた。

劇評

「民俗的な伝統に依拠しながら独自の演劇的ポキャブラリーとなる要素をそこから抽出、再構成し、現代演劇の先鋭的なイデオロムを作りだしている」……インディアン・エクスプレス紙